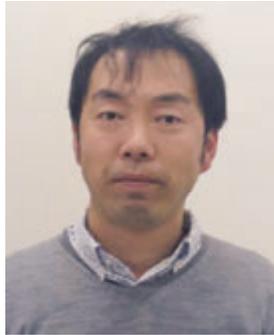


# 心理学 ミュージアム



武蔵野美術大学教養文化・  
学芸員課程 准教授

## 荒川 歩

Profile—あらかわ あゆむ

同志社大学大学院文学研究科博士課程後  
期課程単位修得退学。博士（心理学）。名  
古屋大学大学院法学研究科特任講師など  
を経て現職。専門は心理学史、法と心理  
学。著書は『心理学史』（共編、学文社）、  
『裁判員』の形成、その心理学的解明』  
(ratik) など。

## 映像で見るオーラルヒストリー



岩脇三良先生



台利夫先生



大村政男先生（逝去）



大山正先生



鹿取廣人先生



金子隆芳先生



杉溪一言先生



祐宗省三先生



詫摩武俊先生



成瀬悟策先生



原一雄先生



肥田野直先生



宮田洋先生



山岡淳先生



山本多喜司先生

オーラルヒストリーのインタビュー風景（氏名の五十音順に掲載。2015年までにインタビューが終了した方で、  
写真掲載のご許可を頂いた方のみ掲出。撮影：鈴木朋子・小泉晋一・荒川歩）

心理学史の研究をしているときに、なぜこの研究が盛んになされるようになったのだろうか、なぜこの人たちが集まって新しい組織ができたのだろうか、どうしてもよく分からないことがしばしばある。その当時の外的な根拠と照らし合わせてそれらしい説明をつけてみても正直十分びたつと来るわけではないときがある。その原因は、歴史は、論文や会議資料といった文書資料に残る公的で論理的なものだけではなく、そのような文書に残らないような「人となり」の要素を考慮しなければ、十分理解できないからであろう。人に影響をうけるという体験は、その話された内容よりも、その人柄や振る舞い（たとえば雑談も含め）を介するほうが多いのかもしれない。自分の学生時代を思い出しても、強く思い出されるのは、講義の内容というよりも、それぞれの先生の語り口や表情の作り方である。また、ある先生に先述の問い（「なぜX先生の研究が急に日本でいろんな研究者に引用されるようになったのだろうか？」）を非公式に（失礼にも）ぶつけてみたところ、X先生を知るその先生は人柄を理由に挙げて説明してくださった。

さて、本誌70号・71号でも紹介されているように、日本心理学会教育研究委員会では、名誉会員や終身会員の中から一定年齢以上の方を対象に、オーラルヒストリーと題して、心理学をめざした経緯や、ご研究の内容、学会でのお仕事などについてインタビューで伺い、日本の心理学が人によって作られていく様子を記録にとどめようとしている。このオーラルヒストリー事業は、サトウタツヤ資料保存小委員会委員長の下、高砂美樹委員・鈴木朋子委員・小泉晋一委員そして荒川が個々のインタビューを担当している。

そのインタビューの際、実は併せてビデオを撮らせていただいている。先述の通り、私自身は、文字おこしされた資料ももちろん重要であるが、このビデオデータに固定された話し口や人柄も、日本の心理学の形成の一つの大切な礎なのだろうと思っている。実際、朗々と読みなく月日など細かい情報までつい先日のことのように語る先生もいらっしゃるが、身振り手振りを交えていきいきと語る先生もおり、また一方でここにこと控えめながら丁寧に丁寧に大切にお話しくださる先生もいて、どの先生にも、独自の、印象的な人を引きつける話し方のスタイルがあり、そのお話の内容だけではなく、その振る舞いや、そこに見え隠れする熱意にも魅了されずにはいられない。

そこで資料保存小委員会のオーラルヒストリー担当グループは、その映像を2分のダイジェストにして、日本心理学会のウェブページで公開することにしてもらった。

映像は編集が済み次第掲載していくので、まだ掲載されていないものもあるが、2016年3月現在のところ、インタビューが終了したのは、秋谷たつ子先生、岩脇三良先生、台利夫先生、大村政男先生（ご逝去）、大山正先生、柏木恵子先生、鹿取廣人先生、金子隆芳先生、坂野登先生、杉溪一言先生、祐宗省三先生、詫摩武俊先生、鳥居修晃先生、成瀬悟策先生、原一雄先生、春木豊先生、肥田野直先生、宮田洋先生、山岡淳先生、山本多喜司先生（五十音順）である。インタビューは、2時間を超えることもままあり、2分間の抜粋を作成するのは、いつも断腸の思いである。ビデオで関心を持った方は、ぜひテキストのほうも読んでいただきたい。

正直に言えば、オーラルヒストリーの醍醐味は脱線にあると思うのだが、戦争での体験や、恩師・先輩への思い、いろいろな人とのふれあいなど、おそらくあまり文書資料には残らない体験にこそ、その時代の人々の行動を形作った何かが見え隠れしているように思う。本当はこの脱線も共有したいのだが、残念ながら後で原稿化されてしまうときにはインタビューイのご希望で削除されてしまうことも多い。

最後に、穏やかにお過ごしの中、この唐突なオーラルヒストリープロジェクトにご協力くださった先生方、またいろいろなお都合で結果的には残念ながらご参加いただけなかった先生方も含めて、心より感謝を申し上げます。